

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570101495
法人名	特定非営利活動法人ゆめ家族
事業所名	平和ヶ丘ケアホーム
所在地	宮崎市平和が丘西町31-3 (電話) 0985-20-8063
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年 8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6人	常勤	5人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(0 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	80歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いしかわ内科、楠本内科胃腸科医院、いちほら医院、ひとえ歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市郊外の歴史のある閑静な落ち着いたところのある団地内にホームは位置している。「地域の中で家族や地域と協力しながら、強い絆で安心して暮らし続けること」を理念に利用者の立場に立った、暖かい心のこもったサービスが実践されている。介護度の高い利用者を積極的に受け入れ、終末期のあり方についても全員が方針を共有し真剣に取り組んでいる。小規模多機能型居宅介護を併設しており、行事の一部を合同で開催し、生活に広がりをもたせるなど工夫している。利用者は明るく思いやりのある職員に支えられ穏やかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の権利義務については、本人や家族に機会あるごとに説明し理解を得ている。又、地域の自治会に加入し、地域行事に参加する等前回の外部評価を踏まえた改善に取り組み実践されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は施設長を中心に全員で取り組み、サービス向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの活動内容の報告や参加者からの意見、質問等について充分話し合い、その結果をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族にはホーム便りを毎月発行し、利用者の暮らしぶりを伝え、健康状態も詳しく報告している。又、家族の訪問時に家族から意見や苦情が気軽に言いやすい雰囲気作りを努めている。今後さらに家族会を設けて家族同士の集まりの場で、意見や苦情が出やすいような仕組みを作してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、これまでの近隣住民との交流や近くの幼稚園、交番、消防団等との交流をさらに深めてほしい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で家族や地域と協力しながら、家族のような絆を結び、利用者が安心して暮らし続けることを支えていく」独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1ヶ月に1回、管理者、職員全員が参加して理念について掘り下げて話し合い、日々の介護に取り組んでいる。		理念をさらに職員、家族、地域の人々と共有して実践に活かすために、玄関や事務室等に掲示してはどうだろうか。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、夏祭り等に参加して地元の人々と交流を深めている。		近隣住民との交流や近くの幼稚園、交番、消防団等との交流をさらに深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は施設長を中心に全員で取り組み、サービスの向上に活かしている。又、外部評価の結果を踏まえて改善計画を立て質の確保に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの活動内容の報告や参加者からの意見、質問等について充分話し合い、その結果をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎市より認知症介護推進事業の委託を受ける等、行政との関係づくりを積極的に行い協働関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはホーム便りを毎月発行し、利用者の暮らしぶりを伝え、健康状態等についてはきめ細かにその都度家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に家族から意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。	○	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見や苦情が出せるような仕組みを作ったらどうだろうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職者や異動が少なく、馴染みの職員が継続的に暖かく支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が人材育成には積極的で、法人内外の研修に機会あるごとに参加させレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やセンター方式推進研修会等に参加して同業者との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族に事業所を見学してもらったり、時間をかけて十分話し合いながら、納得して利用が出来るよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が地域の中でその人らしく暮らしつづけることができるよう、共に過ごし、学び、支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の様式をアセスメントに取り入れ、一人ひとりの思いや希望、意向を詳細に把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催の施設長を交えたミーティングや毎日の引継ぎ時に職員全員で意見交換をして、利用者や家族の意見を十分反映し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、2ヶ月に1回実施している。又、状態の変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の取り組みや外泊支援、外出の支援等グループホームの多機能を生かした柔軟な支援を行っている。		
の					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の外、以前からのかかりつけ医での医療が自由に受けられるように、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に本人や家族と話し合い確認している。かかりつけ医とも繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることがないように、言葉の内容や語調等に細心の注意をはらっている。又、全ての職員が個人情報保護の理解に努め、秘密保持の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入所者の1日の流れを把握しており、その日の体調に配慮しながら、希望にそって柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの希望や好みをできるだけ取り入れ、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを一緒に楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態を確認し、基本的には本人の希望に合わせて、全員毎日入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や炊事の手伝い、洗濯物たたみ等利用者一人ひとりの経験や知恵を発揮し、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ボランティアの協力を得て、近くの公園に散歩に行ったり、買物、デイケア利用等希望にそって出来るだけ外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練は行っている。	○	災害が発生した場合、職員だけの対応では限界があり、日ごろより地域住民や警察署、消防署等との連携を図っておくことが重要である。災害対応マニュアルを作成し、関係者の協力を得て定期的な訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	職員は利用者の栄養摂取量はおおまかに把握しているが、カロリーの過不足はないかどうか等、一度管理栄養士からチェックしてもらってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の住宅を改造した建物で若干狭く感じられるが、利用者は今まで住んでいた自宅の延長の感じで、違和感がなく居心地よく安心して暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や思い出の写真等が持ち込まれ、居心地よく安心して暮らせるように工夫がされている。		